

☆TAC!! 公式アカウント 友達募集中☆

TAC公式LINEアカウントではTACの皆様が日々担い手に訪問する際に話のネタになる情報や営農技術関係の情報などを配信しています。ぜひご登録ください!

■登録は右のQRコードからお願いいたします■



お知らせ

■栃木県本部「耕種スマート農業実演展示会」を開催(12/17) NEW

栃木県本部 営農販売企画部 担い手支援課は、12月17日に「耕種スマート農業実演展示会」を開催しました。当日は、Z-GIS・ザルビオ等のソフトウェアや、それらとシステム連携できる農業機械に加え、リゾケア・アクアポート等の省力化技術の展示を行いました。また、セミナー会場では、ザルビオの初級・中級・上級に分けての操作体験会、今年度より栃木県本部にて設置を開始しているRTK基地局の概要説明や、RTKを活用した自動操舵実演会を実施しました。栃木県本部は、今後も県内の担い手支援に向けた取り組みを進めていきます。



【①農業機械等の展示、②ザルビオ操作体験会、③RTK自動操舵実演会の様子】

■秋田県本部「秋田アグリフロンティア育成研修」でZ-GIS講習を実施(12/16-17) NEW

秋田県本部は12月16日-17日に、県と市町村が連携し、秋田県の次世代を担う農業者が受講する「秋田アグリフロンティア育成研修」の講義として、受講生11名を対象にZ-GISの講義をおこないました。この講義ではZ-GIS基本操作の他、圃場管理、農業経営に関する学びを深めました。秋田県本部では継続的にZ-GISの指導・普及に取り組み、次世代を担う農業者の育成・支援に努めてまいります。



【講習の様子】

■岩手県本部「JAいわて花巻ザルビオ研修会」を開催(12/9) NEW

岩手県本部は12月9日、JAいわて花巻、BASFジャパンと共同で「JAいわて花巻ザルビオ研修会」を開催し、生産者や県内TAC・営農指導員およそ60名が参加しました。研修会では、同システムを活用している農業法人・山正(山形県)による特別講演に加え、新規導入ユーザー・導入済みユーザーに分けた階層別の操作研修を実施し、活発な意見交換の場となりました。

参加した生産者からは、「優良事例や効果的な活用方法を知る良い機会となった。今後の活用に活かしたい。」と前向きな声をいただきました。



【研修会の様子】

■群馬県本部「営農支援システムの操作研修会」を開催(12/3・12/11) NEW

群馬県本部生産資材部担い手推進課はJA邑楽館林にて、12月3日(水)・12月11日(木)2回に分かれて営農支援システムの操作研修会を実施しました。本研修はJA支援で取り組む「系統未低利用・大規模生産者への推進体制構築」の一環で、情報の相互活用による推進活動の進捗管理や生産者情報の蓄積、推進手法の確立を目的としています。37名が参加し、PCを用いて実際の操作方法を確認しました。参加者からは「日々の出向く推進活動に、システムを活用するイメージが沸いた。このシステムを使うことがゴールではなく、出向く推進活動をより良いものにする為の1つのツールとして使っていきたい。」との感想がありました。



【研修会の様子】

■岡山県本部「農機フェア2025」でスマ農情報発信・農作業安全を啓発(11/28-29) NEW

JAグループ岡山は11月28~29日、「農機フェア2025」を開催し、2日間で約3,500人が来場しました。農機メーカー25社による最新機械の展示をはじめ、肥料・農薬に加え環境に配慮した栽培技術や農業ICTの紹介ブースを設置し、営農に役立つ情報を提供しました。併せて農作業事故体験VRを用いた安全啓発活動を行い、農作業現場における危険性の周知や安全対策の重要性を学ぶ機会も提供しました。

農業ICTブースではザルビオやZ-GISなどのスマート農業技術を紹介し、来場者から関心の高さが伺え、操作体験では「簡単に使える」「マップの見方が分かった」と好評でした。JAグループ岡山は、これからも地域性や規模に応じた農業機械や栽培技術提案を通じて、生産者一人ひとりの営農を総合的に支援します。



【農業ICTブースの様子】

■秋田県本部「スマート農業指導士育成プログラムでZ-BFMの講習」を開催(11/17) NEW

秋田県本部は11月17日、スマート農業指導士育成プログラムでZ-BFMの講義を実施しました。今回はJA職員や生産者、県職員ら24名に対し、Z-BFMの基礎~応用演習まで組み入れた講義を行い、営農計画の策定について学びを深めました。講義中は現場での活用を見越した質問が飛び交いました。受講生は今回学んだ内容を、プログラム後半で行うスマート農業導入の最終プレゼンテーションで費用対効果を示す指標として活用します。



【講習会の様子】

■AFJ日本農業経営大学校オンラインスクール

「寺坂農園に学ぶ 農家のための共感マーケティング」講座のご案内 NEW

AFJ日本農業経営大学校オンラインスクールは、2026年1月13日(火)~15日(木)の日程で、「寺坂農園に学ぶ 農家のための共感マーケティング」講座を開催いたします。

(各回12:30~13:30のうち、お好きな日にちにご受講いただけます)

SNS・DM・接客といったさまざまな顧客接点を戦略的に活用し、お客様の共感を生み、育て、リピーターへとつなげていくための実践ノウハウを学ぶオンライン講座です。

体験講座の詳細は本校HPでご確認いただけます。

https://www.afj.or.jp/jaiam/onlineschool/empathy_marketing/



■本所TAC・営農支援課「TAC・出向く活動パワーアップ大会2025」を開催（11/20-21）

本所TAC・営農支援課は、11月20・21日に新横浜プリンスホテルにて「TAC・出向く活動パワーアップ大会2025」を開催。全国のJA・県域・関係機関など36県域から約350名が新横浜会場に参集し、各県に設置した県域サテライト会場からも約260名が参加しました。

昨年に引き続き、東日本・西日本・中四国九州の3地区で開催した地区別審査委員会にて選出されたJA・TACによる最終プレゼン審査を実施し、JA部門全農会長賞としてJA秋田なまはげ、TAC部門全農会長賞としてJAわかやま 土谷氏が受賞されました。併せて、会場では基調講演、表彰式、TACトップランナーズJA・TAC部門地区別優秀賞・JA部門米集荷特別表彰受賞JA・TACによる取組事例発表、参加者による分科会などを実施しました。普段接しない他県・他JAのTACとの交流の場としていただくことで、出向く活動の輪を広げ、さらなる活動のレベルアップの機会となりました。本会場ならびに各県域会場からご参加いただいた皆様、大変ありがとうございました。



～受賞JA・TAC一覧～

(県順)

TACトップランナーズJA ※	
滋賀県 JAレーク滋賀	
石川県 JA小松市	
滋賀県 JA北びわこ	
福岡県 JA筑前あさくら	
JA部門 全農会長賞	
秋田県 JA秋田なまはげ	
JA部門 優秀賞	
静岡県 JAハイナン	福岡県 JA筑前あさくら
TAC部門 全農会長賞	
和歌山県 JAわかやま 土谷氏	
TAC部門 優秀賞	
福島県 JAふくしま未来 蒔田氏	熊本県 JA本渡五和 山下氏
TAC部門 地区別優秀賞	
岩手県 JAいわて中央 米田氏	秋田県 JA秋田しんせい 佐々木氏
石川県 JA金沢市 山本氏	滋賀県 JAレーク滋賀 申辻氏
島根県 JAしまね 原田氏	愛媛県 JAおちいまばり 合田氏
JA部門 米集荷特別表彰	
北海道 JAあさひかわ	
石川県 JA小松市	
滋賀県 JA北びわこ	

※JA小松市、JA北びわこ、JA筑前あさくらについては、本年度の特別措置による受賞。

～大会宣言～

我々TACは、

- 一、担い手とともに、新たな技術と知恵で、持続可能な農業を創造します。
- 一、JAグループの総合力を結集し、多様なニーズに応えます。
- 一、地域社会を守るため、「食」と「農」をつなぐ架け橋となります。

大会の様子は下記からご覧ください。

写真：https://drive.google.com/drive/folders/1qtnZGjzxEjP8q0Te-gI4h-BqMnrUL3YD?usp=drive_link

動画（大会1日目）：<https://youtube.com/live/1gExFEhdRVo?feature=share>

※動画冒頭は開始前の待ち時間です。1:00:00頃から開会式が視聴いただけます。

大会2日目のプログラム（TAC部門地区別優秀賞・JA部門 米集荷特別表彰事例発表ほか）については、後日録画視聴URLをご案内いたします。

■本所TAC・営農支援課「91農業」の紹介動画を作成しました！

本所TAC・営農支援課では、多様な人材が各々のライフスタイルに合わせて農業に関わることができるよう、農業へのハードルを下げて農業参加を促進する、「あなたのライフスタイルに農的生活を1割取り入れませんか？」をコンセプトとする新たなライフスタイル「91農業」（キュウイチノウギョウ）を提唱しています。この活動を通じて、農業に興味がある人や将来農業を志す人に対し、農業を経験する場を提供したいと考えています。

先般、JAグループ最大のチャンネル登録者（107万人）を持つYouTubeアカウント「ゆるふわちゃんねる」に

「91農業 ～あなたの暮らしに農的生活を1割取り入れませんか？～全農が提唱する新しいライフスタイルです」をUPしました。約4分の短い動画ですが、91農業についてわかりやすく説明しています。是非、会議やイベント等でご利用ください。

【YouTube】https://www.youtube.com/watch?v=Apn-VUjb_Vg



■栃木県本部「出向く担当者パワーアップ栃木県大会2025」を開催（12/2）

栃木県本部 営農販売企画部 担い手支援課は、12月2日に「出向く担当者パワーアップ栃木県大会2025」を開催し、県内8JAおよび関係機関から約60名が参加しました。当日は、AGRIFUTUREのライターである鶴巻温泉創造庵の平井氏を講師に招き、「発信力を意識した文章の作り方」講習を実施しました。その後、JAうつのみやの松原調査役よりTAC・出向く活動パワーアップ大会2025の事例報告をいただいた後、各連合会からの報告、情報提供がありました。栃木県本部の枝部長からは「農業は大きな転換期を迎えている。今回の大会をきっかけに困難を乗り越えていって欲しい。」とのお話がありました。栃木県本部は、今後も県内の出向く活動の強化に向けた取り組みを進めていきます。



【出向く担当者パワーアップ栃木県大会】

■福岡県本部「第3回TACスキルアップ研修会」を開催（11/27）

福岡県本部では近年県内で深刻化しているイノシシやシカ、鳥類等による鳥獣害に対応するため、

県内JAのTAC担当者等を参集し、「福岡県下の鳥獣害対策」をテーマに第3回スキルアップ研修会を開催しました。

研修会には福岡県農林水産部の担当者に加え、鳥獣害対策アドバイザーの和田先生や（株）鳥獣害対策連携センターの阿部先生をお招きし、鳥獣害の現状や効果的な対策について講義を行いました。

当日はJA・関係機関を含め約60名が参加し、現場での実践に役立つ知識や事例を共有しました。今後、JAグループ福岡全体で鳥獣害対策の強化を図り、作物の被害軽減と生産者の所得増大を目指します。



【研修会の様子】

■千葉県本部「令和7年度ネギ農業塾(第7回)」を開催（11/25）

ＪＡ山武郡市・ＪＡ全農ちばでは、ネギ生産振興を目的としてＪＡ管内において新規でネギ栽培に取り組む生産者を対象に「ネギ農業塾」を開講し、育苗～収穫・調整作業までの一連の流れを説明する全８回の研修を行っています。第７回となる今回はＪＡ全農ちば 営農技術センター内のほ場を活用して、ネギ収穫作業と出荷調整作業（皮むき）の実習を行うとともに、山武農業事務所の普及指導員より、止め土や収穫作業等の座学での説明を行いました。参加した生産者からは「収穫作業や皮むきなどを実際に体験できたのは良かった」等のご意見をいただきました。

今後も、農業塾等を通して、千葉県、ＪＡグループが一丸となって産地振興に取り組むとともに、ＪＡ全農ちば 営農技術センターを営農技術の発信や新規生産者の就農支援等の拠点として活用していきます。



【ネギ農業塾の様子】

■兵庫県本部「スマート農業技術活用研修会」を開催（１１／１９）

全農兵庫営農部は、Ｚ－ＧＩＳによる圃場管理やザルビオによる栽培・生育管理を進めていく中で、１１月１９日に「スマート農業技術活用研修会」を開催しました。

研修会では、Ｚ－ＧＩＳの基本的な機能や操作方法をはじめ、全国および県内での活用事例、さらにはザルビオやレイミーとの連携による先進的な取り組みについて幅広く紹介しました。ＪＡ職員が組合員との接点強化ツールとして利用を考えています。

Ｚ－ＧＩＳの導入を７年前より推進しており、これまでの「点」の支援から「線」へ、そして「面」へとつなげていくことを目指します。皆さまの営農活動を支援すべく、スマート農業の普及に力を入れていきます。



【研修会の様子】

■千葉県本部「令和７年度第２回園芸用パイプハウスの自力施工に係る研修会」を開催（１１／１１）

千葉県農林水産部生産振興課およびＪＡ全農ちばは、県内生産者およびＪＡ職員を対象にパイプハウス自力施工の研修会を共催し、研修には千葉県内各地区の新規・若手の生産者、ＪＡ職員等も併せて２７名が参加しました。

本研修は令和元年に発生した房総半島台風により、千葉県の園芸施設に甚大な被害を与えたことをきっかけに生産者・ＪＡ職員を対象に始まった研修会です。研修の内容としては、ＪＡ全農ちば 営農技術センター内のほ場にて、建設前の測量方法や使用する道具の説明、パイプハウスの組み立て作業等について実習を行いました。

今後も千葉県、ＪＡ全農ちばは引き続き生産者、ＪＡ職員の技術向上を目的に研修会を企画していきます。



【研修会の様子】

技術情報

■農研機構 技術情報 「農業経営計画策定支援システムの開発とスマート農業経営指標の公開 - スマート農業の導入効果を見える化 -」

(農研機構HPへリンク) NEW

今週は、農業経営計画策定支援システムの開発とスマート農業経営指標の公開についての研究成果を紹介します。

農研機構は、水田作におけるスマート農業導入効果を可視化するための「農業経営計画策定支援システム」を開発し、その一部を公開しました。

このシステムは、スマート農業実証プロジェクトで得られたデータをもとに構築した農業経営指標と、それを活用してシミュレーションを行うWebアプリで構成されています。スマート農業を導入した効果を簡易にシミュレーションすることができます。

※農研機構プレスリリース・普及成果情報は担い手営農サポートシステム「ナレッジ」18_（TAC広報・情報誌）にリンクを貼付しています。

(出典：農研機構HP 普及成果、研究成果より)

～全農は、農業現場が抱える課題の解決に向けて、農研機構と連携し、新技術・新品種の産地提案や実証試験を通じた普及推進に取り組んでいます～

■農薬研究室 技術情報 農薬技術情報2025年総集編

(アピネス/アグリインフォHPへリンク) NEW

今回は総集編として本年の発信記事を一覧にいたしました。見逃した方は要チェックです！

担い手営農サポートシステム「ナレッジ」04_ (農薬) にも格納してあります。

(出典：アピネス/アグリインフォHP 営農情報より)

農業労働力支援

■全農本所TAC・営農支援課 「全国労働力支援協議会」の開催

本所TAC・営農支援課では、全国6ブロックに設置したブロック別労働力支援協議会での協議を踏まえ、農業労働力支援を通じた地方創生・地域活性化を目指す「全国労働力支援協議会」を令和4年3月に設立し、設立以降毎年開催しております。

6ブロックの協議会(北海道、東北、関東甲信越、北陸東海近畿、中国四国、九州)と、全中、全共連、農林中金、全農およびパートナー企業を構成団体とし、オブザーバーとして農水省他関連省庁や関係企業等にも参加いただいています。

今後、本所TAC・営農支援課は協議会を通じて、①農業への多様な人材の活用促進、②農業以外の他産業との連携促進、③後継者誘導しやすい環境づくりの促進を目指し、農業だけでなく地方が抱える課題の共有と解決に向けた取り組みを進めます。

■全農本所TAC・営農支援課 「91農業」の提唱

本所TAC・営農支援課は、様々な方々に農業参加を促す新たなライフスタイル「91農業」を提唱しております。

他産業・一般の方々に向けて、①農業へのハードルを下げて農業参加を訴求すること、②パートナー企業連携による農作業請負の取り組みを広く周知すること、等を目的として「あなたのライフスタイルに農的生活を1割取り入れませんか？」をコンセプトに、少しでも多くの方が農業に関われるような環境を目指して全国労働力支援協議会とも連携しポスターやHP等でPR活動を進めています。



- 9本業1農業：休みの日に1日農業、新しい副業の形
- 9育児1農業：子育てしながら一時期に農業、新しいパートの形
- 9旅行1農業：旅行の1日に農業、新しい旅行の形
- 9夢追1農業：夢を追いながら一時期に農業、新しいバイトの形
- 9自宅1農業：家以外に居場所が一つ増える、新しい就労支援の形



事業承継

■全農本所TAC・営農支援課 「事業承継支援 虎の巻」のご案内

全農本所TAC・営農支援課では事業承継ブックを活用した事業承継支援にかかるTACの技を収集し、全国のTACの皆様「達人の極意」として共有いただけるよう「事業承継支援 虎の巻」を発信しています。

あなたの「技」を全国のTACへ伝授いただけませんか？伝授についてのご相談は県域TAC部署を通じて本所TAC営農支援課にご連絡ください！

担い手営農サポートシステム「ナレッジ」17_ (新規就農・事業承継) にも格納済みです。ご活用ください。

■全農本所TAC・営農支援課 「Z-GISで効率的な事業承継の実現を！」のご案内

全農本所TAC・営農支援課では訪問チラシ「Z-GISで効率的な事業承継の実現を！」を作成しています。Z-GISの推進および事業承継の啓発の際にご活用ください。[こちら](#)からご確認ください。

■全農本所TAC・営農支援課 「JAグループにおける事業承継ブック親子版を活用した事業承継支援の手引き」のご案内

全農本所TAC・営農支援課ではJA全国担い手サポートセンターと連携し、JA等職員に「事業承継ブック親子版」を一層活用いただくべく取り組みポイントを整理し、支援の具体的なイメージが理解できるように手引きを作成しています。

ご一読いただき皆様の事業承継支援の取組の後押しとなることを願っています。

手引きは、担い手営農サポートシステム「ナレッジ」17_ (新規就農・事業承継) にも格納済みです。

■全農本所TAC・営農支援課 事業承継啓発チラシ親子別Ver.のご案内

全農本所TAC・営農支援課は、事業承継啓発に係るツールとして親子で別々に活用できるチラシを作成しています。このチラシは「初めて親、子の意向の聞き取る際に親と子で別々にアプローチすると進めやすい」というTACの声をもとに作成しました。個別ヒアリング後、内容を親子で共有する場をつくることで、以後の経営者と後継者の話し合いのきっかけとなる

よう事業承継を提案する最初の一步目のツールとして使いやすいものとなっていますので、担い手訪問の際に持参していただければと思います。

チラシデータは担い手営農サポートシステム「ナレッジ」17_（新規就農・事業承継）にも格納済みです。

■事業承継ブック（部会版）発行・配付

本所TAC・営農支援課は「事業承継ブック～産地全体の話し合いのきっかけに～」（事業承継ブック部会版）を発行し全農HPで公開しています。是非、各県でのTAC活動を通じて活用をよろしくお願ひします。

全農 HPは[こちら](#)

■事業承継ブック（集落営農版）発行・配付

本所TAC・営農支援課では各県からの意見に基づき、「事業承継ブック～世代を超えた話し合いのきっかけに～」（事業承継ブック集落営農版）を発行し全農HPで公開しています。是非、各県でのTAC活動を通じて活用をよろしくお願ひします。

全農HPは[こちら](#)

Z-GIS



!! Z-GIS の動画のご紹介!!



全農本所スマート農業推進課が、新たにZ-GISの動画を1編作成しました。計3篇を公開しますので県やJA・生産者への導入、展示会等のPRにぜひご活用ください。

Z-GISスタートアップガイドは[こちら](#)
 Z-GISユーザーインタビューは[こちら](#)
 Z-GISユーザーインタビュー2020は[こちら](#)



■本所スマート農業推進課 ～スマート農業の先進事例を見てみよう！～「Z-GIS・ザルビオ活用ガイド2023/2024」を発行（ご案内）

本所スマート農業推進課では、Z-GIS・ザルビオの利用促進、さらなる普及拡大を目的に、令和元年度のZ-GIS導入ガイドから始まり、令和4年度は「Z-GIS・ザルビオ活用ガイド2023/2024」を発行しました。

各システムのユーザーである全国の生産者、JAにインタビューを実施し、計8事例掲載しております。また、ガイドの冒頭2ページに、Z-GIS・ザルビオを導入いただいたユーザーのスタートアップを支援するため、利用登録から圃場・作付登録までの手順を掲載しております。

冊子をご要望の方は、本所各営農資材事業所、本所スマート農業推進課までご連絡ください。また、Z-GISホームページや担い手営農サポートシステム「ナレッジ」15_（スマート農業・ICT）でもPDF版を公開しております。

活用ガイド2023/2024は[こちらから](#)ご覧いただけます。

人材育成（TACアグリビジネススクール、他各種研修資料等）

■全農本所TAC・営農支援課 令和7年度TACアグリビジネススクール開催スケジュールのご案内

令和7年度のTACアグリビジネススクールについて、日程が決定いたしましたので下記の通りご案内いたします。

※第8～10回で開催時間の変更がありましたので、ご確認ください！ 2025/7/9 更新

回	日程	時間	テーマ
1	6/3（火）	10:00～15:00	農業を取り巻く情勢・取り組み
2	7/9（水）	10:00～15:00	生産資材・技術情報①
3	8/5（火）	10:00～15:00	農業労働力支援・相続・事業承継
4	9/3（水）	10:00～15:00	農業現場における労務管理・会計基礎
5	10/8（水）	10:00～15:00	会計・税務研修①

6	11/5 (水)	10:00~15:00	会計・税務研修②
7	12/3 (水)	10:00~15:00	会計・税務研修③
8	1/7 (水)	10:00~15:00	総合事業連携の取り組み
9	2/4 (水)	10:00~15:00	生産資材・技術情報②
10	3/4 (水)	10:00~15:00	販売強化の取り組み

※日程やテーマは会議室・講師の都合により変更する場合があります。

■全農本所TAC・営農支援課 TACアグリビジネススクール収録動画の格納について（ご案内）

本所TAC・営農支援課は開催した「TACアグリビジネススクール」の講義内容の動画をYouTubeに限定公開しています。

動画URL・講義資料は担い手営農サポートシステム「ナレッジ」13_（会議・研修・手引き資料）にも格納済みです。

■「TACの手引き」、「TAC担い手訪問ハンドブック」

TACの意義や導入目的、取組の進め方など、TACの導入から運用に至るまでを網羅する「TACの手引き」と、担い手訪問のノウハウをまとめた「TAC担い手訪問ハンドブック」について担い手営農サポートシステム「ナレッジ」13_（会議・研修・手引き資料）に掲載しました。ご活用ください。

貸出資材

■全国共通資材の貸出

○のぼり、ハッピー、テーブルクロス

貸出申請書は、担い手営農サポートシステム「ナレッジ」18_（TAC広報・情報誌）22_（店舗・イベント）に格納されています。

○提出先：zz_zk_tac@zennoh.or.jp

◎必ずクリーニングをして返却してください◎

◎返却の送料は貸出先にご負担いただきます◎

○タペストリー

本所TAC・営農支援課は「TACパワーアップ大会2025」の開催にあわせ、TACタペストリー一覧を更新しました。イベント時などにご使用ください。

なお、使用時は「TACタペストリー貸出しマニュアル」のご一読をお願いします

○提出先：zz_zk_tac@zennoh.or.jp

※担い手営農サポートシステム「ナレッジ」12_（パワーアップ大会・営農指導員大会）に投稿済みです

経営相談

※無料ですので、積極的にご活用ください!!!

■担い手対応の経営相談

担い手を対象として経営に関する相談を行っています。経営に関する税務の疑問・質問がありましたら、県域TACまで連絡ください。

■農業経営支援に関する役立つ情報を配信します！NEW

農業経営支援に関する役立つ情報をTAC通信、TAC LINEで配信をしていきます！

実際に合った事例や、過去の対応・決算データ等を基に現場のTACに分かりやすい形でお届けします。

◆記事はこちらから [👉Click here](#)

◇今後の配信スケジュール

TAC通信（毎月第4水曜日掲載）／TAC LINE（毎月末配信）

配信月 | テーマ

○ 節税のポイント！を全5回シリーズで解説！

- 5月 農地の取得・保有・譲渡編
- 6月 設備投資編（スマート農業、環境負荷軽減）
- 7月 青色申告編-①
- 8月 青色申告編-②
- 9月 法人化編

○ 事業承継支援に向けた担い手の経営税務に係る
チェックポイントを全5回シリーズで解説！

- 10月 集落営農法人の事業承継
- 11月 個人親子間
- 12月 法人親子間
- 1月 個人第三者承継
- 2月 法人第三者承継

○ これだけはおさえておきたい！インボイスを解説！

- 3月 経過措置への対応策について

◆ アンケートはこちらから！

農業経営支援に関する上記の記事の感想、今後取り扱ってほしいテーマなど皆さんのお声を気軽にお聞かせください！

担い手営農サポートシステム関連情報

■ 担い手営農サポートシステムの利用申請について

利用申請（新規、再登録、削除）については、Web上で実施していただきます。

(URL : <https://zennoh.my.site.com/entry>)

以下登録の手順をお知らせいたします。

- ① 上記URLを開き、必要事項を入力
- ② 入力内容を確認し、利用規約に同意する
- ③ 入力した内容が記載されたPDFがダウンロードされる
- ④ 申請情報で入力したアドレス宛に申し込み完了メールが送信され、PDFアップロードリンクが記載されている
- ⑤ ダウンロードされた担い手サポート管理システム申請書PDFを印刷し、「情報機器管理者」「管理者」「担当者」欄に押印する
- ⑥ PDFアップロードリンクに押印したPDFをスキャンしてアップロードして完了
- ⑦ ヘルプデスクが入力内容を確認し、問題なければ、アカウント発行処理が実施される

詳細は担い手営農サポートシステムのナレッジに格納しております。

(ナレッジURL : https://zennoh.lightning.force.com/lightning/r/Knowledge_kav/ka02x000000WRyxAAG/view)

※ナレッジは担い手営農サポートシステムユーザーのみ閲覧可能です。

■ ヘルプデスク連絡先

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-27-5 リンクスクエア新宿9階
株式会社 全農ビジネスサポート
担い手営農サポートシステムヘルプデスク
TEL : 03-3350-1157
Eメール : ninaite-help@z-bs.co.jp

ランキング集計

【 11月 】 月間ランキング

JA別-面談記録登録状況

TAC一人当たり面談記録登録状況

(訪問期間:2025/11/01 ~ 2025/11/30)

	JA名	件数	訪問人数	一人当たり
1	JAレーク滋賀	2,093	66	31.7
2	JA仙台	1,527	38	40.2
3	JA金沢市	1,313	26	50.5
4	JA南彩	1,135	11	103.2
5	JA常総ひかり	1,010	16	63.1
6	JAさいたま	980	16	61.3
7	JAフルーツ山梨	837	27	31.0
8	JA岡山	753	25	30.1
9	JAよこすか葉山	680	6	113.3
10	JA兵庫南	670	13	51.5

(訪問期間:2025/11/01 ~ 2025/11/30)

	JA名	件数	訪問人数	一人当たり
1	JA柏屋	317	2	158.5
2	JAなす南	472	3	157.3
3	JAよこすか葉山	680	6	113.3
4	JA南彩	1,135	11	103.2
5	JAさいかつ	409	4	102.3
6	JAしおのや	501	5	100.2
7	JAあさか野	571	6	95.2
8	JAあきた北	553	6	92.2
9	JA福岡大城	82	1	82.0
10	JA東京むさし	221	3	73.7

★担い手営農サポートシステムの面談記録数（業務種別：担い手対応）を集計

★12月9日登録までの集計

【 12月8日 ~ 12月21日 】 週間ランキング集計

JA別-面談記録登録状況

TAC一人当たり面談記録登録状況

(訪問期間:2025/12/08 ~ 2025/12/21)

	JA名	件数	訪問人数	一人当たり
1	JAレーク滋賀	684	42	16.3
2	JA仙台	683	36	19.0
3	JA金沢市	588	22	26.7
4	JAさいたま	539	15	35.9
5	JAむなかた	498	10	49.8
6	JA兵庫南	365	13	28.1
7	JAフルーツ山梨	353	20	17.7
8	JAいなば	351	16	21.9
8	JAよこすか葉山	351	6	58.5
10	JAみえきた	339	15	22.6

(訪問期間:2025/12/08 ~ 2025/12/21)

	JA名	件数	訪問人数	一人当たり
1	JA柏屋	97	1	97.0
2	JAよこすか葉山	351	6	58.5
3	JAなす南	233	4	58.3
4	JA足利	109	2	54.5
5	JAさいかつ	202	4	50.5
6	JAしまね 西いわみ地区本部	150	3	50.0
7	JAむなかた	498	10	49.8
8	JAあさか野	291	6	48.5
9	JAふくおか八女	91	2	45.5
10	JAあきた北	272	6	45.3

★担い手営農サポートシステムの面談記録数（業務種別：担い手対応）を集計

★12月23日登録までの集計

最近のメディア

○スマート農業情報

[Z-GISのアップデート情報（積算気温抽出機能）](#)

※担い手営農サポートシステム「ナレッジ」15_（スマート農業・ICT）に格納

○グリーンレポート12月号

[新技術セミナー～スマート農協の導入を支援する「農業経営計画策定支援システム」の開発～](#)

[スマート農業推進の取り組み～JA たじまが取り組む「Z-GIS・レイミー連携」を活用したイネカメムシ一斉調査～](#)

○全国サポセンニュース

[全国サポセンニュース第100号](#) ※各領域の活動事例連絡様式は[こちら](#)

○経営実務9・10月号

[いまこそTACだ!! 石川県 JA金沢市 山口朝史氏](#)

[いまこそTACだ!! 静岡県 JAハイナン 岩堀真也氏](#)

○地上1月号

※「地上」の公式HPは[こちら](#)から。

○全農ウィークリー

[2025年12月22日 \(vol.1132\) NEW](#)

※TAC活動の紹介等で転載する場合は申請不要です。

○AGRI FUTURE

[No. 110 \(JAわかやま\) 発行 \(6/25\)](#)

◆生産者の声：新しょうが／すもも／南高梅（なんこううめ）

◆クローズアップ：新しょうがレシピ

◆地域百景：日本一の梅ブランド／和歌山県の「すもも」

フリーペーパー：各領域TAC部署へ送付 HPは[こちら](#)

○全農HP

- 「国産大豆商品発見コンテスト」受賞者決定！～受賞団体へ表彰をおこないました～NEW
- 12月21日（日）横浜市でJA全農チビリンピック2025を開催！出場選手を「ニッポンの食」で応援NEW
- 「虹のコンキスタドル」がクリスマスライブ配信！電話出演や年賀状プレゼントなど特典盛りだくさんNEW

○農業協同組合新聞

- 店舗、宅配ともに前年超え 11月度供給高速報 日本生協連NEW
- 数字で読む「令和の米騒動」（上） 混乱招いた流通悪者論 集荷後半に“異変”NEW
- 数字で読む「令和の米騒動」2025（下） 始まった損切り 小売りにも値下げの動きNEW
- 米のコスト指標作成へ 米穀機構に委員会設置NEW
- 業務用米の特徴を紹介 播種前・書面契約のリスク管理 東京で業務用米セミナー&交流会NEW
- ノウフク・アワードで「チャレンジ賞」障害者の社会参画や地域農業に貢献 JA全農NEW
- 鳥インフル 英国からの生きた家きん、家きん肉等 輸入を一時停止 農水省NEW
- 鳥インフル ハンガリーからの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置を解除 農水省NEW
- 【26年度畜酪決着の舞台裏】加工補給金上げ12円台 新酪肉近で全畜種配慮NEW
- 配合飼料供給価格 トン当たり約4200円値上げ 2026年1～3月期 JA全農NEW
- 日本産米・米加工品の輸出拡大へ 意見交換会「GOHANプロジェクト」設置 農水省NEW
- みどり戦略対策に向けたIPM防除の実践（90）クロロニトリル【防除学習帖】第329回NEW
- 農薬の正しい使い方（63）除草剤の生理的選択性【今さら聞けない営農情報】第329回NEW
- スーパーの米価 前週から10円上がり5kg4331円に 2週ぶりに価格上昇NEW
- 米5kg3000円台がズラリ 特売スーパーが語る「米価引き下げのカギ」はNEW
- ナガエツルノゲイトウ防除、ドローンで鳥獣害対策 2025年農業技術10大ニュース（ヒック1～5）農水省NEW
- ぶどう新品種「サニーハート」、海水から肥料原料を確保 2025年農業技術10大ニュース（ヒック6～10）農水省NEW
- α世代の半数以上が農業を体験 農業は「社会の役に立つ」 JA共済連が調査結果公表NEW
- 農薬出荷数量は0.6%増、農薬出荷金額は5.5%増 2025年農薬年度出荷実績 クロップライフジャパンNEW
- 国内最多収品種「北陸193号」の収量性をさらに高めた次世代イネ系統を開発 国際農研NEW
- 「農林水産業みらいプロジェクト」2025年度助成 対象7事業を決定NEW
- 鳥インフル 米国からの生きた家きん、家きん肉等 輸入を一時停止 農水省NEW
- 乾田直播・湛水直播を議論 第2回「田植え不要の米づくりコンソーシアム」 農水省NEW
- 【畜酪政策価格最終調整】補給金上げ実質12円台か 19日に自民決着NEW
- 【11月中酪販売乳量】1年2カ月ぶり前年度割れ、頭数減で北海道“減速”NEW
- 畜産の新たな社会的価値創出へ 研究開発プラットフォーム設立 農研機構NEW
- 鳥インフル 米国からの生きた家きん、家きん肉等 輸入を一時停止 農水省NEW
- JA営農経済事業支援を加速化 全中・全農・農林中金NEW
- 着色不良・日焼け・晩霜害 果樹の温暖化被害予測システムを開発 農研機構NEW
- メガソーラー支援、2027年度に「廃止」 政府・自民党 「地域共生型」へ転換図るNEW
- 米の流通に関する有識者懇話会 第3回「研究者・情報発信者に聴く」開催 JA全農NEW
- 農機の生産性向上で新製品や実証実験 「ザルビオ」マップと連携 井関農機とJA全農NEW
- 遺伝子組み換え・ゲノム編集食品に対する消費者の意識調査 バイテック情報普及会NEW
- 【サステナ防除のすすめ】スマート農業の活用法（中）ドローン“功罪”見極めNEW
- 「NARO生育・収量予測ツール」イチゴ対応品種を10品種に拡大 農研機構NEW
- みどり戦略対策に向けたIPM防除の実践（89）フタルイミド（求電子剤）【防除学習帖】第328回NEW
- 農薬の正しい使い方（62）除草剤の生態的選択性【今さら聞けない営農情報】第328回NEW
- スーパーの米価 前週から14円下がり5kg4321円に 3週ぶりに価格低下NEW
- 新品種育成と普及 国が主導 法制化を検討NEW
- 「農作業安全表彰」を新設 農水省NEW
- 鈴木農相 今年の漢字は「苗」 その心は...NEW
- ピタッと止まった新米取引 急成長の商系集荷業者が明かす「3億円の損切」NEW
- 全農 全国共通おこめ券を臨時発行NEW
- 野村不動産HD・農林中金と連携協定 農産物消費拡大を通じた地域活性化へ JA全農NEW
- 無償化が追い風 給食での地産地消 オーガニック化の取り組みもNEW
- 鳥インフル 米国からの生きた家きん、家きん肉等 輸入を一時停止 農水省NEW
- 鳥インフル リトアニアからの家きん肉等 輸入を一時停止 農水省NEW

●病害虫発生情報

※ 本リンクは、インターネット上にある新聞や各種情報のうち、TAC・営農支援課が担い手に関係する内容を収集して作成しています。

全農本所 耕種総合対策部 TAC・営農支援課

TEL:03-6271-8276

FAX:03-5218-2535

mailto:zz_zk_tac@zennoh.or.jp



[HP](#)

TAC・出向く活動パワーアップ大会 2025「大会宣言」

我々TACは、

- 一、担い手とともに、新たな技術と知恵で、持続可能な農業を創造します。
- 一、JAグループの総合力を結集し、多様なニーズに応えます。
- 一、地域社会を守るため、「食」と「農」をつなぐ架け橋となります。

★第2・第4水曜を基本に定期配信します（水曜日が祝日の場合は休刊します）★

※お休み等で配信日が変更となることもございます。ご了承ください。